

三〇度線の秋 燃える三十度線)

いま世界の耳目を集めているクウェートは

北緯三十度のすぐ南に位置している。この三十度線をグルリと地球を一まわりすると、中東ではイラン、イラクの急進派とエジプト、サウジアラビヤの穩健派の境界に始まつて、インドと中国を境するヒマラヤ山脈、そして燃えるカリブ海とアメリカとを分けて走り、北アフリカのリビヤの静かな地中海沿岸、ヨーロッパとを分けている。まさに燃える三十度線なのである。

そのクウェートの気候を丸善の理科年表で推ししてみた。世界中の主要な観測所の四百三十八カ所が出ているが、夏の三ヶ月の平均をとつてみるとクウェート 観測所はショウエク) が断然トップで 平均気温で三十六・五度である。当然、日中の気温は四十度をはるかに超え五十度近くにもなる時もある。ちなみに最高気温の世界記録はイラクのバースラで 一九二一年七月八日に記録されたの五十八・八度で、クウェートからわず

か百キロドルの所である。湿度が低いので体感的に暑さを和らげてくれるのが救いであるが、まさに世界で最も暑い炎熱砂漠の夏気候である。

対峙する西側先進国の夏はニューヨークやパリで二千度前後と、十五度から二十度も低い快いサマーの季節なのである。雨にしても、クウェートは六月から九月までは雨は無く五月から十月の半年間で五ミリとまったくの雨なし砂漠である。あまりにも両者は気候のうえで落差が大き過ぎて歯車が噛み合わないのである。

炎熱の砂漠と快適サマーのはざまで、高温多湿の日本が気候のうえから平和の調停者として格好なのではなかろうか。しかしその出番もすでに遅いかもしれない。なぜなら、中東の秋は気温が急に下がりだし西側先進国の中マに近づきつつあり、間もなく体感的に差がなくなってしまうからである。

(村松 照男)